



2022年

みやま

第295号

病院理念
『患者さまの不安をとること』

当院の基本方針
「地域に根ざした安心できる医療」
「精神科医療の充実」
「老人医療」医療と福祉の結合

当院は
コロナウィルス
インフルエンザ
ワクチン

接種率
9割

医療法人社団光生会 平川病院

〔ホームページ〕 <http://www.hirakawa.or.jp/>



東京精神科病院協会 永年勤続表彰がありました

院長 平川 淳一

東精協は永年勤続優良職員表彰を10年、20年、また、日本精神科病院協会は、永年勤続者表彰を30年で行っています。昨年は、コロナ禍のため表彰式が中止になってしまったため、今年は2年分のお祝いの会がありました。この表彰は、ただ単に永年勤続しただけではもらえないもので、特に優良でなければなりません。ここに写っている受賞者は、当院の誇りであり、患者さんの希望であると思います。



同席された、東京都福祉保健局 障害者施策推進部 中川一典部長は、これほど立派な職員の方が大勢いることに驚き、本当にありがたいと賞賛いただきました。わかっていただき本当に良かったと思えました。当院の表彰者をここに記載します。

〔2021年度〕

東精協永年勤続優良職員表彰(10年)

看護部		馬場 亮太
医療相談科	科長	荻生 淳希
栄養科		浅見 友則
リハビリテーション科	主任	山中 裕司

日精協30年永年勤続者表彰

看護部	師長	本田 美智子
看護部	師長	真島 智
認知症疾患医療センター	センター長代理	椎名 貴恵

〔2022年度〕

東精協永年勤続優良職員表彰(10年)

看護部		木村 祥吾
リハビリテーション科	主任	鈴木 淳一

日精協30年永年勤続者表彰

事務部		音田 百合子
-----	--	--------

【表紙】院長あいさつ 【P2】 ネット・ゲーム嗜癖外来立ち上げに向けた取り組み 【P3】 発達障害連載企画 (第4回)
【P4】 病棟たより (内科) 【P5】 退院時アンケートの推移 【P6】 事務室から 【P7】 平川病院での消防訓練
【P8・9】 外国人職員に日本を知ってもらおう! 【P10】 こころの扉

ネット・ゲーム嗜癪外来立ち上げに向けた取り組み

ネット・ゲーム嗜癪外来委員会 作業療法科 科長 土屋 貴裕

令和4年4月より、当院の副院長として宮田久嗣先生が就任されました。宮田副院長は、日本アルコール・アディクション医学会 理事長としてもご活躍されています。宮田副院長の就任にあたり、平川院長は、「当院でも、依存についてはアルコールで20年以上続けてきた自負はあるが、今後、発達障害などとの関連で、ゲームやネット嗜癪についても取り組む必要があり、その大きな力になっていただける」と大きな期待を寄せられていました。そこで、5月より、当事業の立ち上げに向けて、宮田副院長をはじめ、渡邊副看護部長、デイケア科、地域生活支援科、心理療法科、作業療法科のメンバーでミーティングを重ね、10月からは、『ネット・ゲーム嗜癪外来委員会』の名称で、令和5年度の専門外来開設に向けた委員会が発足されました。

専門外来の立ち上げに先駆け、まずは職員の知見を深めることを目的に、10月14日に、宮田副院長より『ネット・ゲーム嗜癪外来開設に向けて』というタイトルで、院内分散教育を開催していただきました。講義は、“依存”と“嗜癪”という言葉の使い方や違いから始まり、ネット嗜癪の分類、家族支援、診断、治療、そして、平川病院のネット・ゲーム嗜癪外来の構想という流れで構成されていました。私個人としては、家族支援について、初診はご家族のみの来院が大半との実情があり、ご本人が治療に繋がるためにも、“ご家族が

ネット・ゲームの知識を得ること”、“ポジティブワードを用いた声かけを行うこと”、といった普段から意識しておくべきことや、“現実世界での役割提供”、“ご家族が自分自身を大切に”、“ご本人への対応のポイントについて、ご家族にも理解、実践していただく必要があるという点に対し、非常に興味深く聴講いたしました。分散教育当日は、勤務時間外の自己研鑽として行われましたが、宮田副院長による講義、当院の新規事業ということもあり、42名が聴講し、職員の関心の高さが窺えました。

現在、委員会メンバーで、ネット・ゲーム嗜癪に関する知見を深めつつ、相談から受診に至るまでのシステムの構築や、専門プログラムの導入に向けて活動しています。当事業については、このみやまで継続して、経過報告や情報発信を行っていきたいと思っております。



分散教育で講義をおこなう宮田副院長

※当院院内感染対策委員会の規定に基づき
感染症対策をおこなったうえで実施しています。

発達障害連載企画

地域生活支援室より

第4回：発達障害専門プログラムと就労

地域生活支援科 公認心理師 鎌田 哲司

成人になってから発達障害の診断を受けた方が就労を目標とする場合には、大きく分けて2つのアプローチが必要になると考えられます。①社会的スキルの獲得や活動性の向上 ②周囲から理解を得て支援を要請できるようになること。

社会的スキルとは、周囲との上手な付き合い方や自分の健康を保つためのスキルの総称となります。本稿では発達障害専門プログラムが、どのような役割を担っているのかお話しできればと思います。

①については、自分の特徴や障害理解を深めることを目指します。「頼む・断る」、「自身の特徴を伝える」など周囲との付き合い方や「ストレス対処」、「感情のコントロール」といった健康を保つためのスキルを練習し、これらを身に着けることで自分なりの対処法や自信が持て、活動性が向上していきます。プログラムの感想として「実際に働く中で学んだスキルが役立った」「自分の特徴がわかった」「同じ苦労をしている仲間がいることを知った」といったお言葉をいただきました。

②については、「周囲に助けてもらっても良い」ことに気づくことを目指します。この気づきを得るには、同じ悩みを持った仲間との出会いやご家族やアルバイト先など周囲から理解が得られた実感が重要になります。プログラムを修了されたメンバーのAさんは、プログラムで気づいた自身の特徴をアルバイトの面接時に伝え、一度は断られるも後に「君の特徴についてはわかったから、こちらが気づいたまずい点は遠慮なく伝えるようにするけど

働く？」と特徴を理解してもらった上で雇ってもらえたという経験をされました。この経験が後の就職活動への自信に繋がり、見事希望していた職場に就職されています。

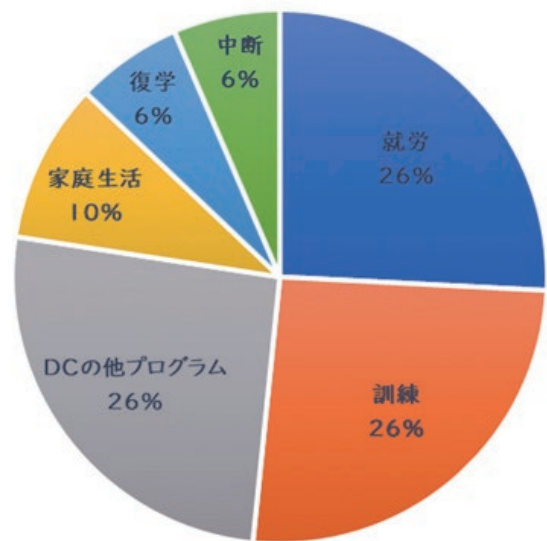


図1 プログラム修了後の進路

プログラム修了後の進路が図1になります。進路の多くが就労やB型作業所、就労移行支援事業所などの訓練に進まれていることから就労のニーズは高いことが伺えます。

現在、デイケアでは発達障害に限らず、就労を希望されるメンバー向けに就労準備コースの開設を計画しています。このコースは週5日デイケアに参加していただき、体力向上やより深い自己理解、それを周囲に伝える練習など、就労に向けたより実践的な準備に取り組んでいただく予定です。

プログラムへの参加をご希望の方へ

プログラムへの参加をご希望の方には、デイケアやプログラムの見学もご案内しています。(事前に当院の診察を受けて頂きます)
 デイケアやプログラムの内容は、参加希望時や見学時に、スタッフが説明を行いますので、お気軽にご相談ください。

平川病院 内科病棟のご紹介

内科病棟 師長 木下 恵美

当院内科病棟は急性期医療を終えた後、さらに継続的な入院加療を必要とする、慢性疾患の患者様が入院する医療療養型病棟です。入院されている方の主な疾患は、脳血管障害・肺炎・尿路感染・脱水・神経難病・慢性心疾患・慢性呼吸不全・慢性腎不全・慢性肝不全・内分泌疾患などです。病棟医が行っている在宅への訪問診療先や、往診先の高齢者施設、近隣の高齢者施設からの入院が主で、退院後に新たに訪問診療や看護を当院から行うケースもあります。

当病棟は高齢の患者様が多く、ご自身の気持ちを医療者に伝えられない方も多くいらっしゃいます。また終末期の方も多く、院内で最も死亡退院が多い病棟でもあります。そういった患者様に対し必要なケアが提供できる様、ご家族や患者様をよく知る方から情報を得てきました。しかし、この3年新型コロナウイルスの影響により、私たちもそういった方と接する機会が少なくなり、

情報収集がとても困難になりました。そのため、現在担当の職員が中心となり、病棟医の協力も得ながら終末期ケアのパンフレットなど、情報の共有ができるツールを作成しています。

新型コロナウイルスの影響で直接面会が禁止となり、患者様もご家族や親しい方と会えない期間が続いています。その様な中で患者様の状態の変化を知ることができず、終末期となって実際に会うとその姿に驚かれる方もいらっしゃいます。そのため、パンフレットを用いて終末期の身体の変化について説明したり、患者様やご家族が終末期ケアに望むことをお聴きしたいと考えています。

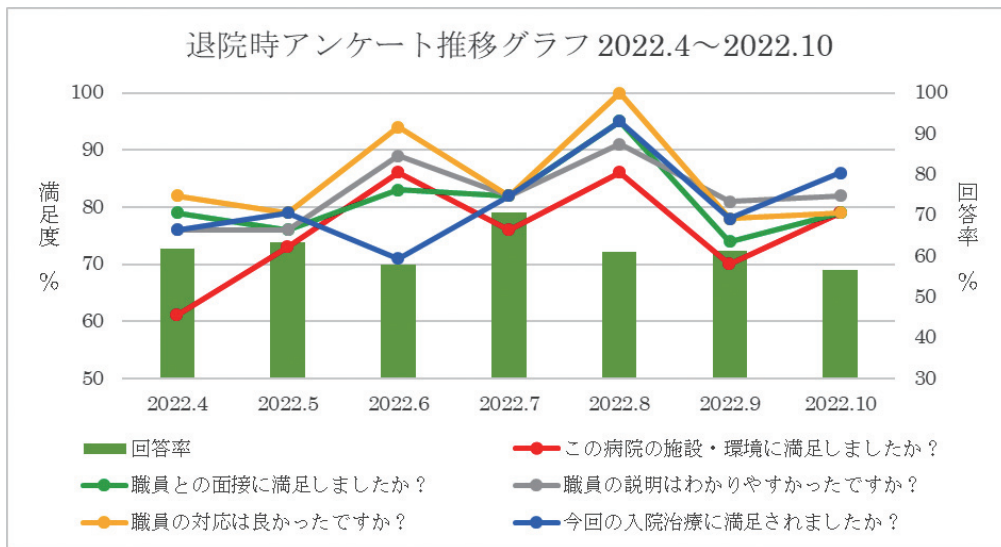
こういったツールを、新型コロナウイルスの終息後も継続して使用し、より良いケアの提供につながるものを皆で作っていきたいと考えています。



退院時アンケートの回答にご協力をお願い致します

医療の質向上促進委員会 総務課 課長 藤川 敏男

平川病院では、退院される患者さまにアンケートのご協力いただき、その集計結果を毎月検討しております。過去約半年ごとに広報誌「みやま」へ掲載した続編として、「この病院の施設・環境に満足しましたか」「職員との面接に満足しましたか」「職員の説明はわかりやすかったですか」「職員の対応は良かったですか」「今回の入院治療に満足されましたか」の5項目（前回同様の項目）を抜粋し、データをグラフ化しました。



2018年11月より、委員会にて「回答率を増加させる」ことを再検討し、退院時に患者様へアンケートをお渡しするなど様々な取り組みを開始しました。改めまして、ご協力いただきました患者さま・ご家族さまに御礼を申し上げます。

アンケートにご協力頂くことにより、感謝のお言葉や応援メッセージは、仕事の「励み」とし、お叱りや厳しいお言葉は「戒め」と受け止め、職員に共有いたします。是非、ご満足いただけただことばかりでなく、ご不満となった内容など、様々貴重なご意見・ご指摘をいただきたく、引き続き、アンケートへのご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

上記グラフの推移を見ると、前回より若干低い回答率62%（平均値）となっております。「職員の説明はわかりやすかった」「職員の対応は良かった」の回答が共に平均84%前後と、高水準の%を維持しております。しかしながら、前回同様「この病院の施設に・環境に満足されましたか」の回答が平均的に低く、課題となっておりますトイレ設備の改善・ベッド（ベッドマット含む）の新規入替など徐々に行っておりますが、引き続きどのような改善が必要なのか検討し、皆様のご期待に沿えるよう改善に努めてまいります。

今後も医療についての説明と合意をより丁寧に行い、患者さまへ満足いただける療養環境の提供を目指してまいります。皆様の貴重なご意見・ご指摘がございましたら、外来や病棟に設置しております意見箱に頂戴いただければ幸いです。

最近の法人室

事務室から

法人室 田中 美貴・天野 麻裕子

私たち法人は、1人が職員の勤怠と社会保険・給与関係を、もう1人が院長秘書の仕事をメインに、2名でそれぞれの仕事をフォローしあいながら主に裏方（職員対応や外部対応）の仕事をしています。メンバーも変わらず仕事内容も基本的には変わらず…何を書こうかと悩みましたが、最近変化したことや気がついたことについて書こうと思います。

つい数か月前まで職員の勤怠（休暇等）申請は紙での運用でしたが、本年9月よりジョブカン（勤怠システム）を導入し、一部の職員を除きスマホやパソコンから申請できるようになりました。職員の皆さんは慣れるのに大変かと思えます。私たち法人も提出された届出の処理にまだ慣れず試行錯誤しています。届出は早めに申請していただきたいのですが、ちょっとチェックを怠るとみなさんから届いた届出が溜まってしまい焦ることもしばしば。届出に不備があり差し戻しをすることもあります。そのような場合は速やかに対応していただけるよう職員へ周知しています。

また、全然違う話で私たち2人が最近気づいたことなのですが、今の法人室に引っ越して4～5年たちます。部屋に窓がないためか天気の変化に気づかないことが多々あることに最近（いまさら!?）気付きました。帰るときに病院の玄関から外を見て、ああ雨が降っていた…いや、逆に晴れてる！となることがあります。最近特に思っているのは外と直接隔てている壁や窓がないためなのか法人室にいる時は寒さをあまり感じません。法人室を出て今日は寒いと思うことが多いです。今年の冬は節電を、と言われてはいますが、今のところ法人室はまだ暖房を使っていません。貢献しているな、とひそかに思っています。

こんな法人室は冒頭述べたように2人しかいないので部屋を空けることや1人しかいないことがあり、電話対応ができない状況も多く、職員にご迷惑をかけてしまうことがあります。職員の皆さんを裏から支えていけるよう健康にも気を付け日々頑張っております。



平川病院での消防訓練

災害対策委員会 総務課 施設係 主任 埴 典仁

当院の災害対策委員会は、いつ起きるかわからない災害に備え、パニックを最小限に抑え「安全」「確実」に行動できるような環境づくりにも取り組んでいます。

近年、地震の二次災害による火災や、暖房器具、家電からの発火による火災が増えています。病院などの施設には、必ず通路や各施設内に消防器具等が設置されていますが、家庭に消火器が設置されている割合は約4割で（日本消火器工業会調べ）、実際に使ったことがある人はさらに少なくなります。このような背景から消火活動演習の案が上がり、実施することになりました。

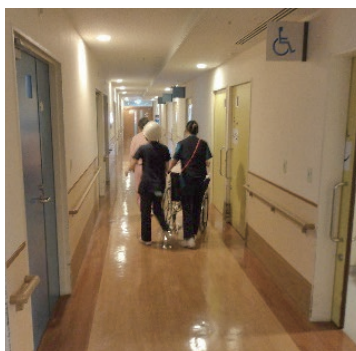
先日、10/19の消防訓練で、通常の避難訓練の後に消火活動演習を組み込みました。消防設備管理のパートナー企業（多摩ニッタン）の協力を得て、実際の消火器（訓練用）を使用し、操作方法のレクチャーと放水実技を行いました。また、今回の企画を機に作成した消火器・消火栓の配置マップを全部署に配布し、いざという時に備え、消火器の配置場所を全職員に実際に確認をしてもらうようにしました。

参加した職員の多くは消火器操作が初体験で、「体験出来て良かった」との声も聞くことができました。今後もこのような機会を設けていくとともに、いろいろな形で災害への対応力向上に貢献していければと思っています。

第1部 避難訓練



火元確認を指示



避難誘導

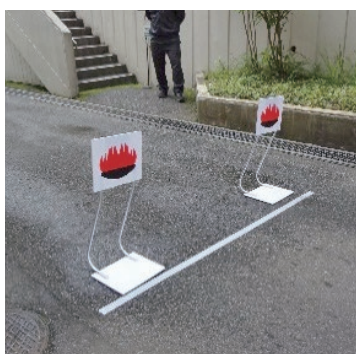


避難完了を確認

第2部 消火活動演習



消火器の操作レクチャー



疑似の火元



放水訓練の様子

外国人職員に日本を知ってもらおう！

広報委員会 栄養科 管理栄養士 遠藤 優

毎年、技能実習・特定技能の職員に日本の文化に触れていただくため色々な企画を行っております。今年もコロナ禍のため遠出は出来ませんが、近隣にある秋川国際マス釣り場で釣り＆BBQをしてきました！

まず初めに釣りの得意な堀江部長よりレクチャー★

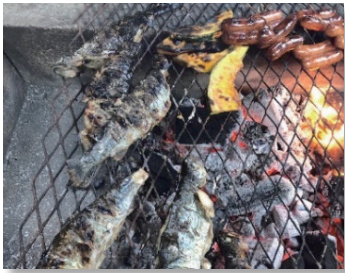


みんな釣れるかな?? 真剣です。ドキドキ♡♡ワクワク

全員釣れました! やった～!

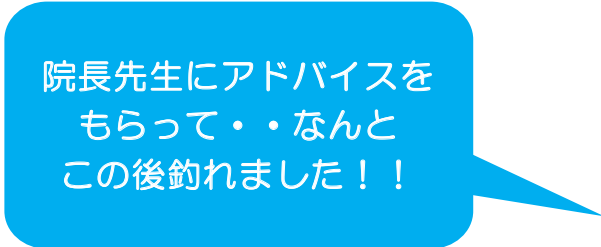


釣った魚、お肉や焼きそばを食べました。



※感染対策をしっかり行った上で、黙食でいただきました。

最初は釣りに不慣れだった外国人職員も、最後はすっかりはまってしまい帰りの時間があるまで釣りを楽しみました。



またこのようなイベントを行って外国人職員との交流を深め、日本を知ってもらえたらいいなと思います。



こころの扉 その216 ～体が温かいと心も温かくなる？～

心理療法科 公認心理師 桐生 佑紀子

こころの扉の記事を担当するのが大分久しぶりになります、桐生です。今年も残りわずかということで、寒さも厳しくなり本格的に冬に入ったなあと感じる今日この頃です。

さて、寒くなると温かい飲み物が欲しくなりますよね。家や外で温かい飲み物を飲んだ時、なんだかほっとして安心するような感覚や気持ちになったことがあるという方は多いのではないのでしょうか？反対に体が冷えると、寂しさや物悲しい気持ちを感じるということもあるのではないのでしょうか？こうした経験は「身体化認知」という理論から説明することができます。私たちの思考や行動は知らず知らずのうちに身体感覚の影響を受けています。上述した温かい飲み物の話に関しては、WilliamsとBargh（2008）が、温かいコーヒーを渡された場合と冷たいコーヒーを渡された場合で、渡した人物への印象評価が異なるのかを調べた研究があります。その結果、温かいコーヒーを渡された場合に、その人物を「あたたかい」と評価しやすかったことを報告しています。そして、このような評価は無意識のうちになされているようです。

温度変化が他者に対する印象に影響を与えるというのは、「そう言われてみると、なんか分かる気がする～」という感想を持つ方が多いかもしれません。この理論を普段、誰かとお茶をしたりご飯を食べるような場面で多用することはあまりないかもしれませんが、相手から自分のことをやさしい良い人だと評価してもらえやすくなる可能性が高まり、自分自身も温かい飲み物を飲めば相手を思いやる気持ちになれると考えれば、損することはまずないでしょう！（笑）

私は相手からポジティブな印象を持ってもらえることを期待するというよりは、緊張するような相手やこれから仲良くなりたいと思う相手に対して、自分が少しでも穏やかな気持ちで接したり交流できるかもしれない、ということを目指して使ってみたいと思います♪



編集後記

小学校6年生、巨人のV9が終演した年、約半数の男子が少年野球をやっていた。まだ「キャプテン翼」も誕生していない時代。小学校の先生が体育でサッカーの授業をしていた時に、「日本は野球が一番人気があるが、一部の国しかやっていない。サッカーは全世界で人気があり、サッカーのW杯という大会は、五輪以上に熱狂するんだよ」・・・

そうなんだと。時代は変わり日本が常連国となり、今回は是非新しい景色（ベスト8）を期待しています。

医療法人社団光生会 平川病院

東京都八王子市美山町1076
電話 042-651-3131
FAX 042-651-3133

編集 平川病院 広報委員会

ご意見ご感想はこちらへお願いします
kouhou@hhsp1966.jp

